

鳥取県地震

2025年（令和7年）7月

鳥取地方気象台

目次

(1) 鳥取県とその周辺の地震活動	
震央分布図及び断面図、概況	1
震源リスト（M2.0以上）	1
(2) 鳥取県内で震度1以上を観測した地震	
震度のリスト	2
震度分布図	3
(3) 地震・津波の知識	
8月26日は「火山防災の日」	4

- 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

- 本資料の地震の震源要素、震度データ及び発震機構解等は再調査された後、修正されることがあります。

* 広域の地震については、大阪管区気象台作成の「大阪管内地震活動図」をご覧ください。

大阪管内地震活動図URL https://www.data.jma.go.jp/osaka/jishinkazan/divos_monthly.html

[震央分布図・断面図]



30 日 08 時 24 分（日本時間） にロシア、カムチャツカ半島東方沖^{注1}の地震（Mw8.8^{注2}（Mw は気象庁による）：上図の範囲外）により、北海道釧路市・釧路町・厚岸町・標津町・別海町で震度 2 を観測したほか、北海道・東北・東海・甲信越・中国・九州地方にかけて震度 1 を観測しました。鳥取県内では、湯梨浜町で震度 1 を観測しました。

(注1) 報道発表で用いた震央地名は「カムチャツカ半島付近」

(注2) 断層のずれの規模をもとにして計算したマグニチュード

No.	発震時(年 月 日 時 分)	震央地名	北緯	東経	深さ(km)	マグニ チュード	最大 震度
1	2025 年 07 月 03 日 11 時 45 分	鳥取県西部	35° 13.4' N	133° 18.2' E	10	2.1	－
2	2025 年 07 月 09 日 22 時 21 分	島根県東部	35° 23.7' N	133° 17.6' E	11	2.1	－
3	2025 年 07 月 12 日 04 時 27 分	兵庫県南西部	34° 57.4' N	134° 35.3' E	14	2.0	－
4	2025 年 07 月 13 日 04 時 05 分	兵庫県南西部	34° 58.2' N	134° 36.0' E	11	2.0	－
5	2025 年 07 月 31 日 04 時 30 分	鳥取県中部	35° 21.5' N	133° 37.7' E	7	2.0	－

(2) 鳥取県内で震度 1 以上を観測した地震

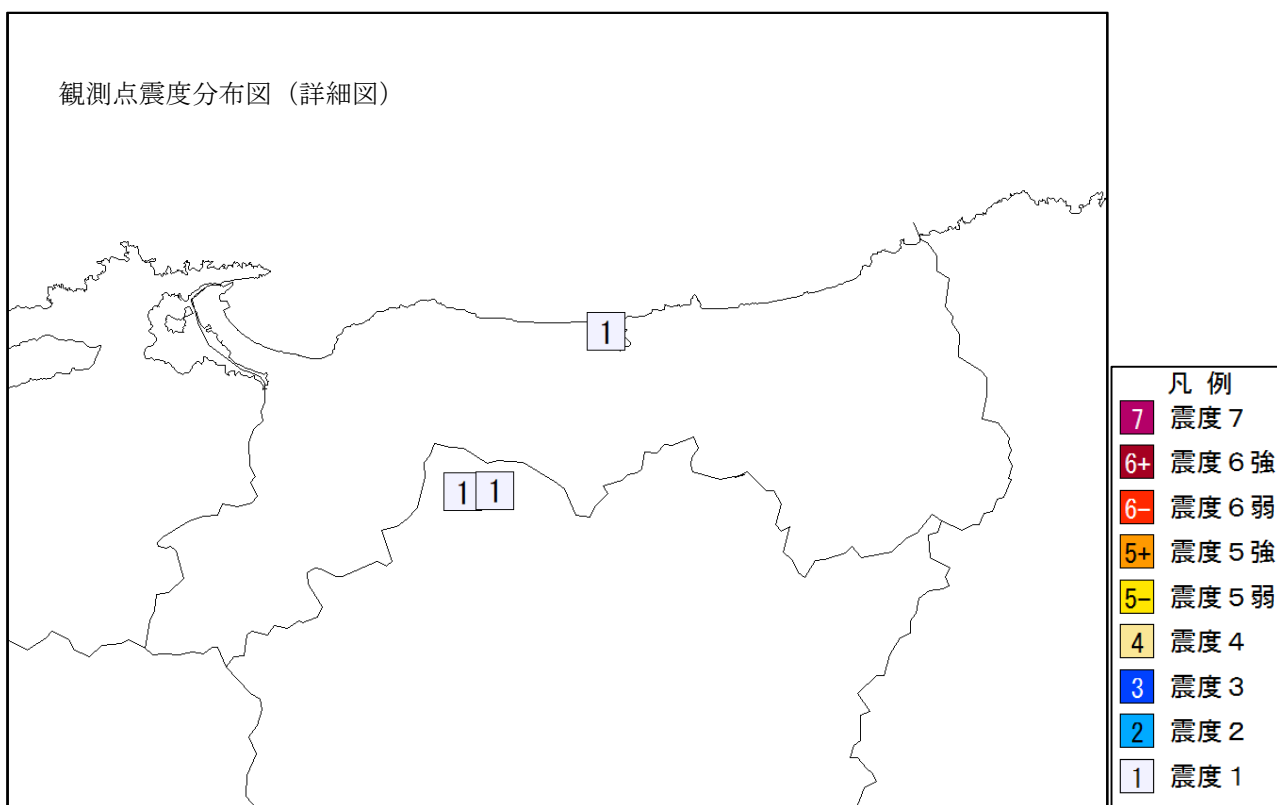
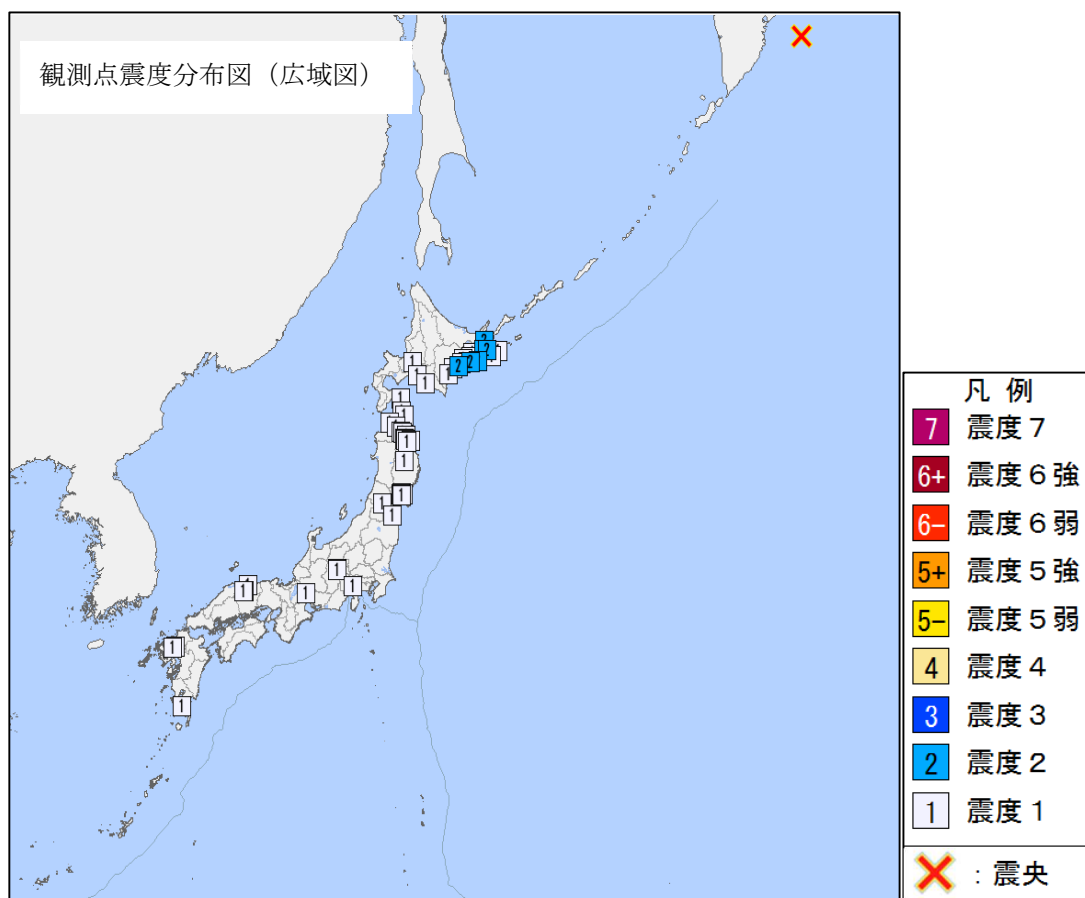
[鳥取県内で震度 1 以上を観測した地震及び震度のリスト]

発震時 (年 月 日 時 分)	震央地名	北緯	東経	深さ	マグニチュード
2025 年 07 月 30 日 08 時 24 分	カムチャツカ半島付近	52 ° 30.7' N	160 ° 19.4' E	35km	M8.8
----- 地点震度 -----					
鳥取県 震度 1 : 湯梨浜町久留*					

- ・震源要素は、米国地質調査所 (USGS) によります。
- ・*印のついている地点は、鳥取県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

[鳥取県内で震度1以上を観測した地震の震度分布図（図中×は震央）]

2025 年 07 月 30 日 08 時 24 分 カムチャツカ半島付近



(3) 地震・津波の知識

8月26日は「火山防災の日」

8月26日は「火山防災の日」です。「火山防災の日」をきっかけに、火山の魅力・恩恵やその危険性を正しく理解し、火山災害に備えましょう。

○火山防災の日

活動火山対策の更なる強化を図り、住民、登山者等の生命及び身体の安全を確保することを目的とし、令和5年6月に活動火山対策特別措置法が改正され、8月26日を「火山防災の日」に制定しました。8月26日を「火山防災の日」とした理由は、明治44年（1911年）8月26日に日本最初の火山観測所が浅間山に設置され、近代的な観測が始まったことに由来しています。

○火山災害

火山災害の要因となる主な火山現象には、大きな噴石、火砕流、融雪型火山泥流、溶岩流、小さな噴石や火山灰、火山ガス等があります。また、火山噴火により噴出された岩石や火山灰が堆積しているところに大雨が降ると土石流や泥流が発生しやすくなります。特に、火山噴火に伴い発生する大きな噴石、火砕流、融雪型火山泥流は、避難までの時間的猶予がほとんどなく、生命に対する危険性が高いため、防災対策において重要度の高い火山現象として位置付けられています。



気象庁ホームページ：Yahoo!ニュース制作図解
(商用利用不可・図解を分割編集しての使用不可)

○火山災害から身を守る

火山災害から身を守るためには、普段からの備えや事前の速やかな避難が重要です。火山への登山や火山近辺に訪れる際には、次のことが大切です。

- 各市町村の「火山防災マップ」による「噴火警戒レベル」に対応する危険な場所の確認。
- 避難場所および避難経路の確認。
- 気象庁が発表する「噴火警報」などの情報や、「噴火警戒レベル」に注意。
- 噴火のおそれがある場合には、危険な地域では事前の避難が必要。地元の市町村の指示があった場合にはそれに従う。

○気象庁ホームページ「火山防災の日」特設サイト

上記内容や気象庁の火山業務（火山観測・監視、火山に関する情報発表等）、日本の活火山（中国地方の活火山：三瓶山、阿武火山群）等の詳細については、「火山防災の日」特設サイト（以下アドレス）をご覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/kazanbosai/index.html>

そのほかの地震活動の詳細については、気象庁ホームページまたは『令和7年7月地震・火山月報（防災編）』をご覧ください。

URL <https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/gaikyo/>

問い合わせ先：鳥取地方気象台

TEL：0857－29－1313